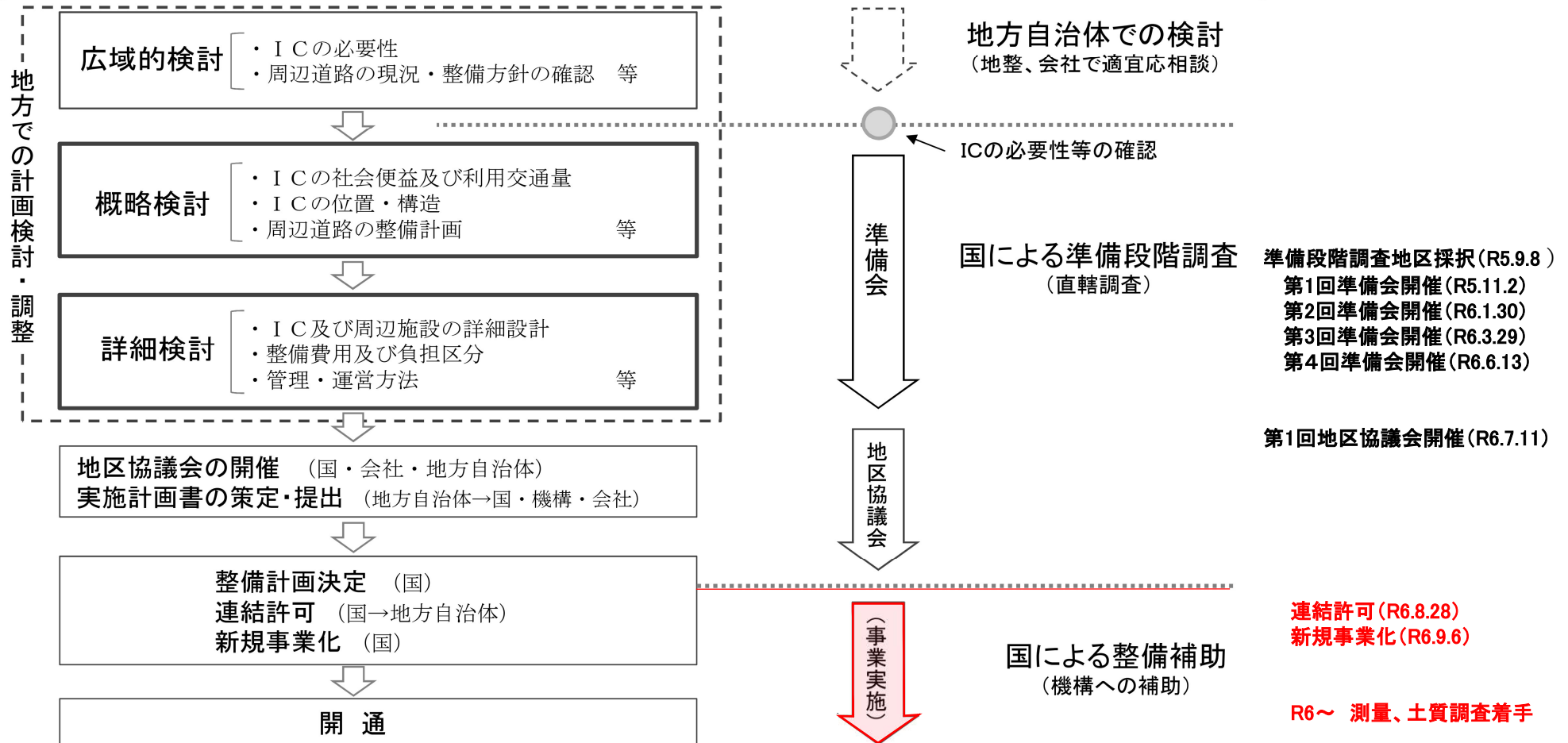


1. (仮称) 守谷SAスマートICの経過

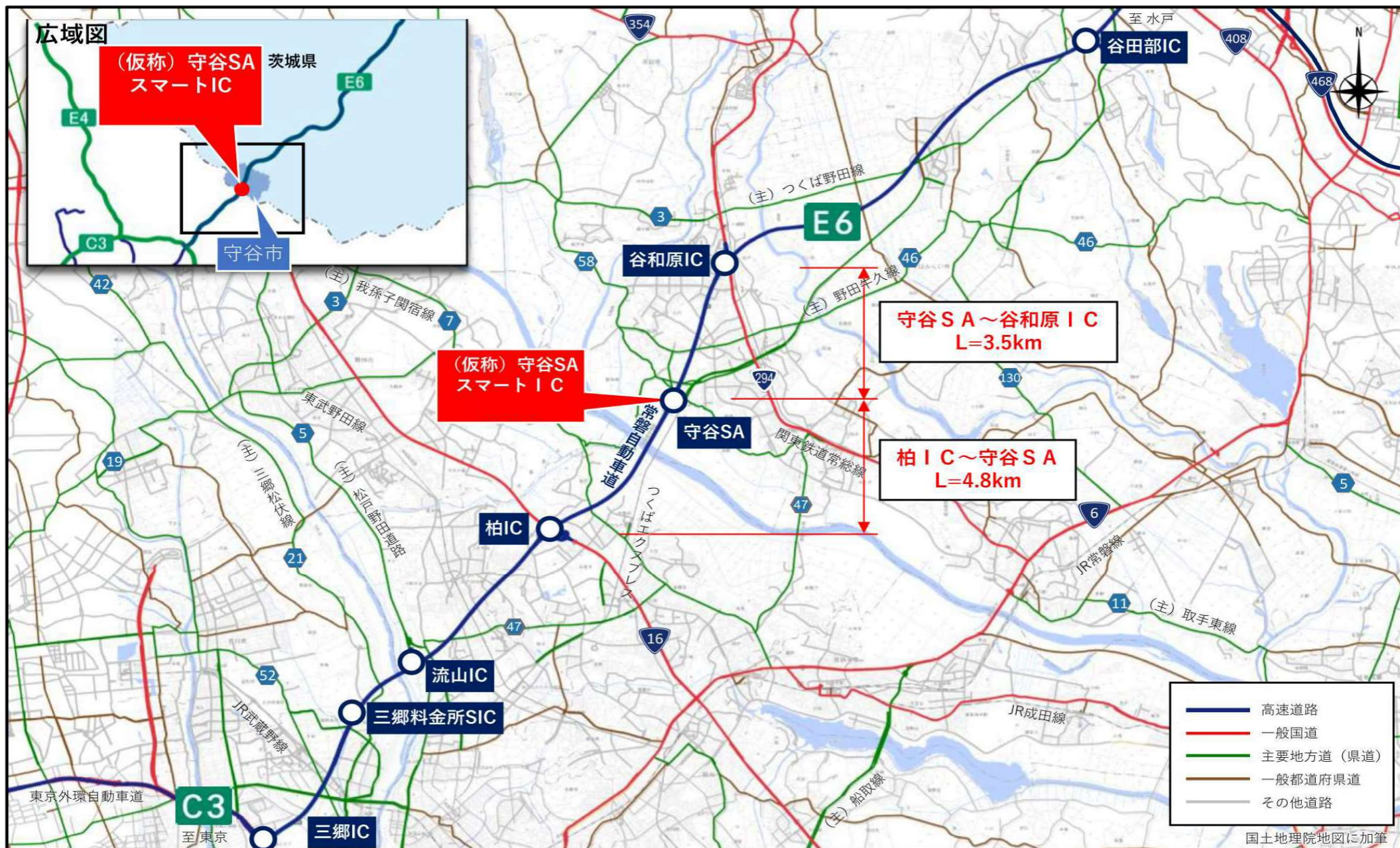
(1) スマートICの経過

スマートインターチェンジの検討・整備について

- スマートICの準備段階(地方での計画検討・調整段階)において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査(直轄調査)を実施(準備段階調査)。
- 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。



2. (仮称) 守谷SAスマートICの位置

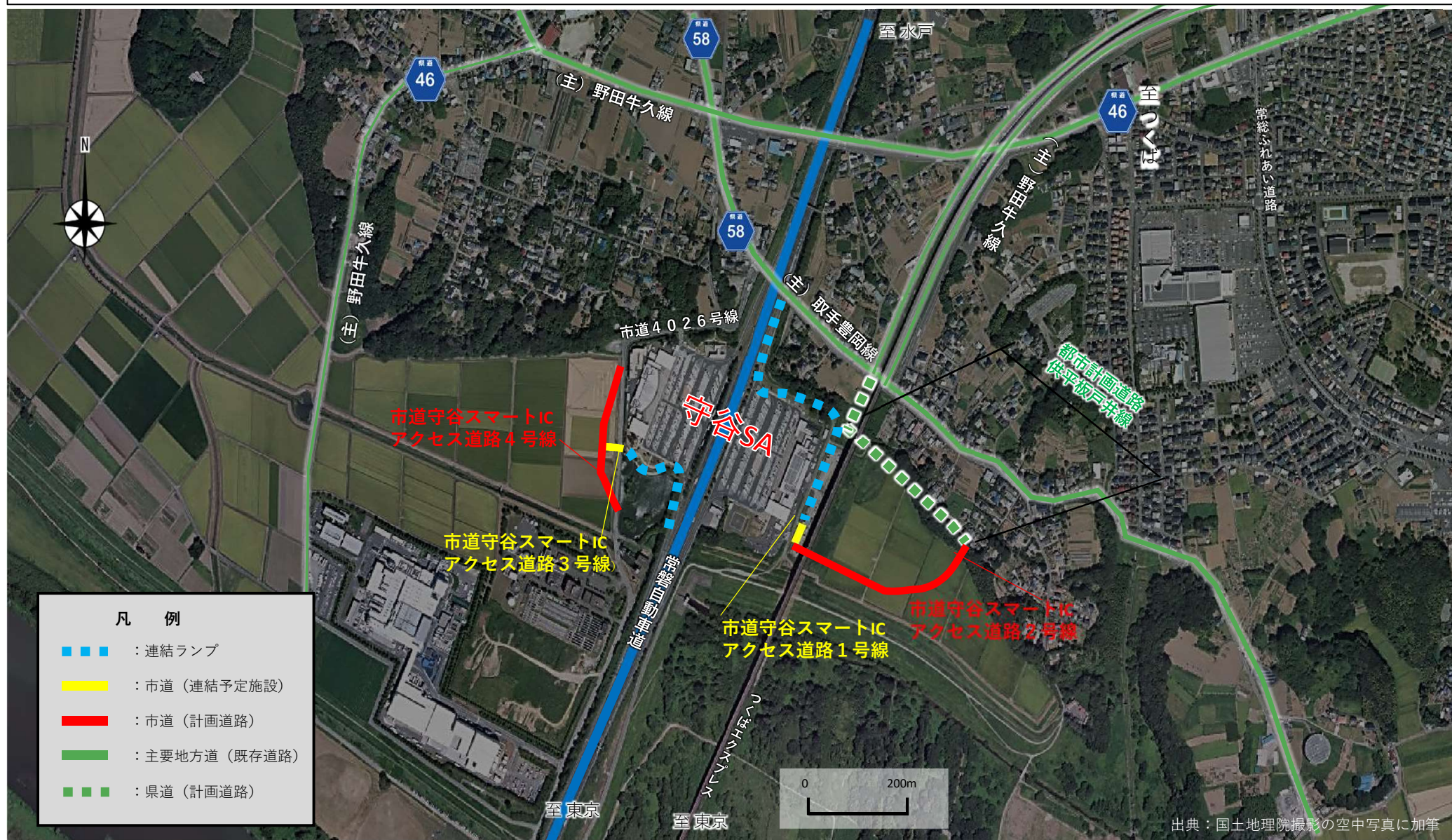


3. 守谷スマートICアクセス道路の位置

連 結 位 置：（上り）茨城県守谷市大柏地内、（下り）茨城県守谷市野木崎地内

連結予定施設：(上り)市道守谷スマートICアクセス道路1号線

(下り)市道守谷スマートICアクセス道路3号線



4. (仮称) 守谷SAスマートICの整備効果

スマートICの設置により期待される整備効果

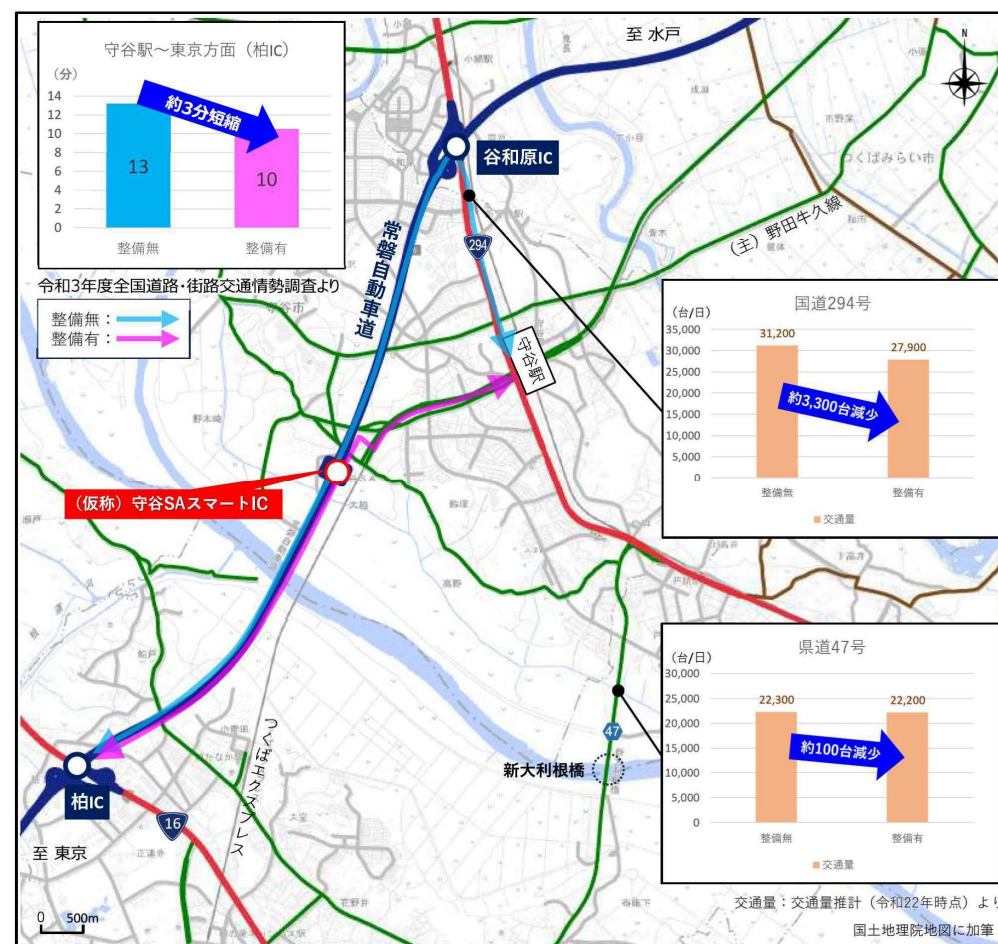
(仮称) 守谷SAスマートICの設置により、以下の整備効果が期待できる。

- 1) 高速道路へのアクセス性向上と周辺道路の渋滞緩和
- 2) 地域産業の活性化
- 3) 救急医療の支援
- 4) 観光施設へのアクセス性・利便性向上
- 5) 災害時における周辺自治体との連携強化

1) 高速道路へのアクセス性向上と周辺道路の渋滞緩和

(仮称)守谷SAスマートICの整備により、常磐自動車道へのアクセス性が向上し、守谷市の中心市街地から東京方面(柏IC)への所要時間が3分短縮する。

また、これまで谷和原ICを利用していた交通が(仮称)守谷SAスマートICに転換することにより、国道294号及び県道47号の混雑緩和に寄与する。

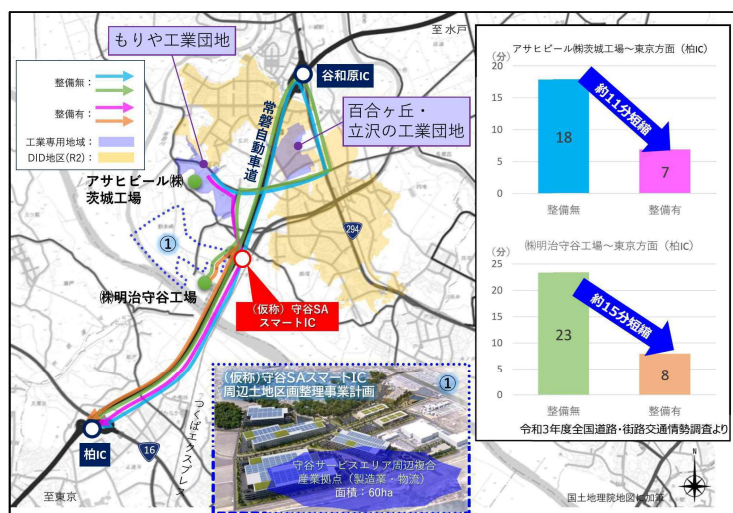


4. (仮称) 守谷SAスマートICの整備効果

2) 地域産業の活性化

(仮称) 守谷SAスマートICの整備により、アサヒビール(株)茨城工場から東京方面(柏IC)の所要時間が最大で約11分短縮し、また、(株)明治守谷工場から東京方面(柏IC)の所要時間が最大で約15分短縮するため、地域産業拠点における輸送業務の効率化による生産性向上が期待される。

同様に、周辺の土地区画整理事業計画と併せ、産業の活性化を先導的に図るための企業誘致及び新たな産業の創出に向けた土地利用を推進する。



アサヒビール(株)茨城工場ヒアリング

- 原料入荷や製品搬送時に混雑している市街地を通過するため、スマートICの整備に期待しています。
- 工場見学者のほとんどが高速道路を利用して来場していることから、スマートICの整備により、東京方面からの所要時間が短縮されるので、来場者数の増加が期待できます。

【主力商品】
スーパードライを東京・埼玉・千葉・茨城・群馬・神奈川等へ出荷
【見学者数】令和4年実績で約30,000人

明治守谷工場ヒアリング

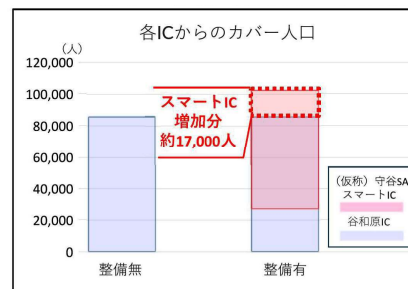
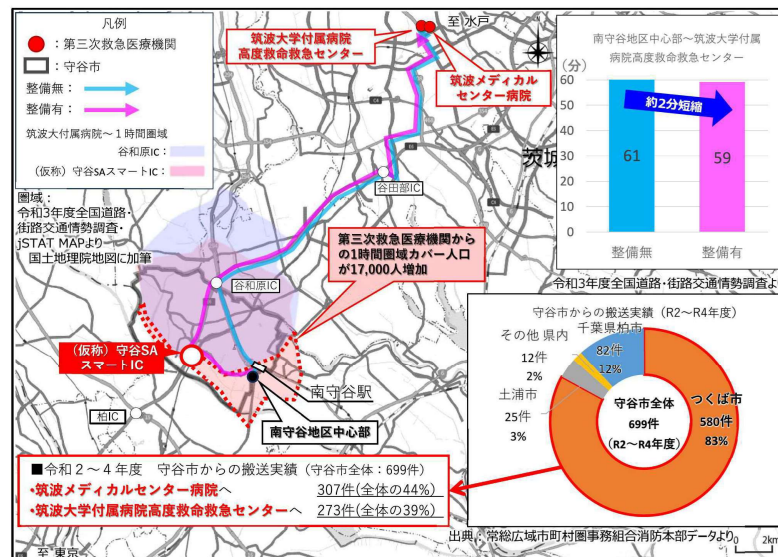
- 物流車は200台/日程度で高速道路等を利用し、関東全域に入荷・製品の搬送をしているので、スマートICの整備に期待しています。
- 運送業界における2024年問題は弊社でも頭を悩ませており、現状ではルートの組み換えや車両の増加等に対応することしかできませんが、スマートICが整備されれば、出荷先への所要時間が大幅に短縮するので、大いに期待しています。

【主力商品】
明治ブルガリアヨーグルト
明治プロビオヨーグルトR1ドリンクタイプ等、東日本を中心に出荷
【見学者数】令和4年実績で約57,000人

3) 救急医療の支援

(仮称) 守谷SAスマートIC整備により、第三次救急医療機関(筑波大学付属病院、筑波メディカルセンター病院)における守谷市周辺の1時間圏域のカバー人口が約17,000人増加する。

また、その恩恵を受ける南守谷地区中心部からつくば市の第三次救急医療機関までの所要時間が2分短縮し、(仮称) 守谷SAスマートIC整備により救急救助活動の迅速化に寄与する。



※圏域人口は、「2020年国勢調査5次メッシュ(250mメッシュ)その1人口等基本集計に関する事項」を用いて集計

常総消防本部ヒアリング

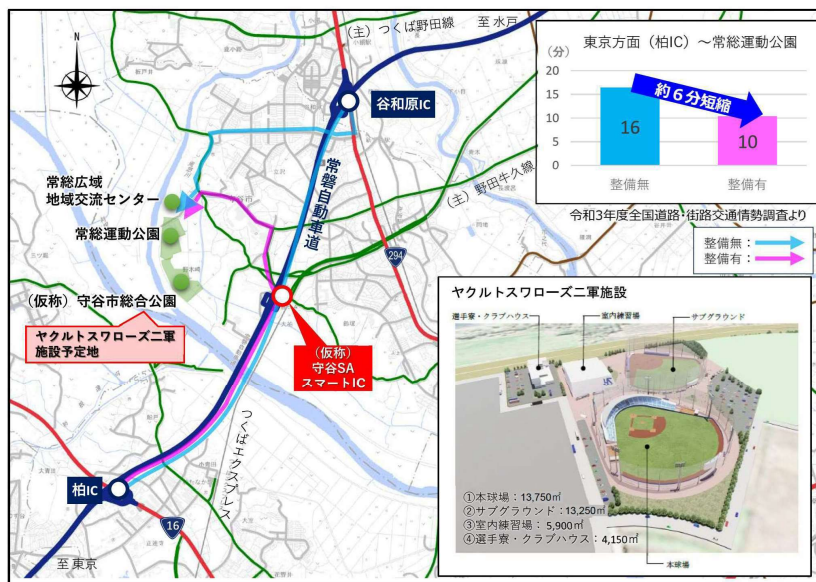
守谷市から第三次救急医療機関への患者搬送は、現状、谷和原ICを利用していますが、(仮称) 守谷SAスマートICの整備により、高速道路利用経路の選択肢が増加します。

4. (仮称) 守谷SAスマートICの整備効果

4) 観光施設へのアクセス性・利便性向上

(仮称) 守谷SAスマートICの整備により、常総運動公園までの所要時間が東京方面(柏IC)から6分短縮し、利用者のアクセス性・利便性が向上する。

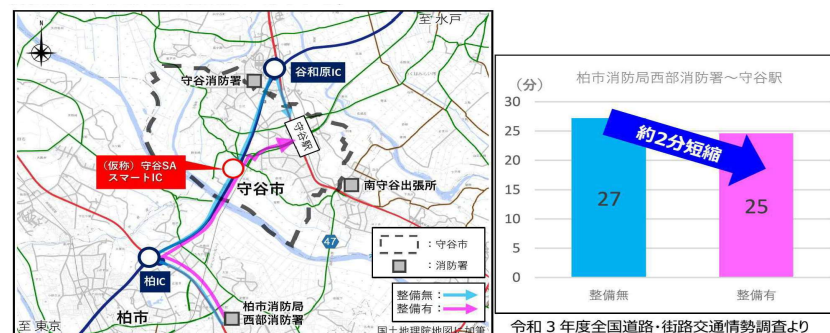
また、守谷SA周辺では、(仮称) 守谷市総合公園や、ヤクルトスワローズ二軍施設の移転が計画されており、更なる集客が期待される。



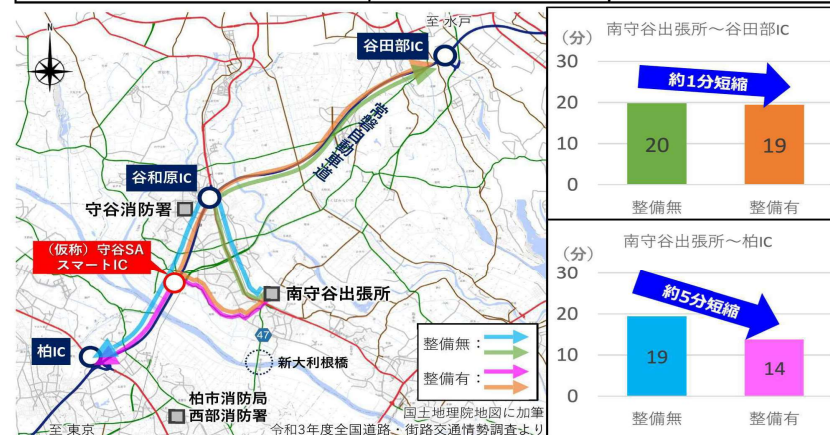
5) 災害時における周辺自治体との連携強化

「柏市常総地方広域市町村圏事務組合消防相互応援協定」により柏市と連携する際は、谷和原ICまで迂回すること無く所要時間が2分短縮し、守谷市の中心市街地に急行することができるため、今後の迅速な応援活動に寄与する。

また、(仮称) 守谷SAスマートICの整備により、「茨城県高速自動車道等における消防相互応援協定」における出動区域である谷田部ICまでの所要時間が1分短縮、柏ICまでの所要時間が5分短縮し、迅速な応援活動に寄与する。



協定出場区域表		
出場市町村	上り線	下り線
常総地方広域市町村圏事務組合	谷和原ICから 柏ICまでの区間	谷和原ICから 谷田部ICまでの区間



基本協定締結の様子



左から御ヤクルト球団 衣笠会長、御ヤクルト本社 成田社長、
守谷市 松丸市長、茨城県 大井川知事

【産経新聞より抜粋】

2軍移転 8年度向け協議

交通利便性が決め手

球団は、東京都内や埼玉県内など近くでの移転を模索したが、土地や施設の確保が困難と判断した。1軍本拠地の明治神宮野球場(東京都新宿区)へのアクセスを考慮。まとまった土地が確保できることや将来的に常盤守谷サービスエリア(SA)にスマートインターチェンジ設置計画があることなどから、誘致に熱心な守谷市への移転を決めた。

5. 今後の進め方

事業スケジュール（案）

